

【実践報告】

教育実習Ⅴ・Ⅵ（中・高）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 黒 木 晶 子

グローバルコミュニケーション学科 教授 笹 原 豊 造

1 はじめに

教育実習Ⅴ・Ⅵは中学校・高等学校教員としての適性を確認し、その資質を伸長するために行われるものである。大学で学んだ理論と教育現場での実践がどのように関連するかを実習で学ぶ。実習校で指導担当教諭の指導のもと、授業参観、教材研究、授業実施、学級指導などを行う。

2 実施のスケジュール

項 目	時 期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～5月	・本実習の意義、目的、心構え等を再確認する。 ・実習校への事前訪問により、指導担当教諭等の指導担当者に、担当となる学級の生徒の実態や、指導計画、担当授業の内容を確認する。 ・教材研究、模擬授業を行う。担当教員による指導、実習生相互の検討作業をと おして、よりよい教材・授業になるよう工夫を重ねる。
本実習 15日間 (学外)	5月～6月	・実習の内容は実習校により計画される。主な内容として、①指導担当教諭等からのオリエンテーション、②授業参観、③教材研究、④授業担当、⑤生徒指導、⑥その他の学校・学級運営に関わる諸業務が挙げられる。 ・実習中は教育実習日誌等の記録をつけ、中学校・高等学校教員の役割・業務等について理解を深める。
事後学修 (学内)	7月 報告会は 7/28に実施	・各自の実習を振り返り、報告書をまとめる。 ・各自の実習内容について報告会で報告する。報告会では、教科指導、生徒指導、校務等をとおして学んだことを発表する。

3 活動の概要

(1) 事前学修

①教育実習直前説明会

教育実習直前説明会を今年度は4月28日（金）に実施した。説明会の目的は、1年次の教職課程履修説明会、3年次の教育実習内諾説明会、その他の授業等においてこれまで確認してきた教育実習に臨むにあたっての心構えを再度確認し、また必要な手続き等を行い、学生が円滑に実習に取り組むことができるようにすることである。説明会は、学生、中高・栄養教諭専門部会の教員、教務担当の職員が参加して実施された。

説明会の内容は以下のとおりである。

1) 事務連絡

…実習に関わる諸手続きについて教務担当者から説明を行った。

2) 教育実習の意義と内容

…教育実習の意義と内容について、『教育実習記録』の手引編に記されている内容にもとづいて説明を行った。これについては、同様の内容を3年次のときに実施する教育実習内諾説明会においても説明しているが、再度、実習の直前で説明を行うことで、さらに学生の理解を深め、教育実習生としての自覚を促すことがねらいである。

3) 教育実習における個人情報の取り扱い

…本年度から、本説明会において新たに設けられた説明の時間枠である。近年、実習における個人情報の取り扱いが広く問題となっている状況をふまえ、個人情報の取り扱いおよび守秘義務について、学生にさらなる自覚を促し、注意を喚起するために実施された。説明を担当したのは、実習を受け入れる側の責任者としての経験を持つ本学教員であり、具体的な事例を交えての講話を行った。学生は講話を聞くことで、改めて個人情報の取り扱いの重要性を認識した様子であった。

4) 教科に分かれての指導

- ・英語
- ・国語
- ・栄養

…教科に分かれて、『教育実習記録』の書き方、巡回指導等について説明を行った。

②『教育実習記録』の配布

毎年度、『教育実習記録』（教育実習を行うにあたって必要となる情報と実習中の記録のための用紙が一体となった冊子）を作成し、教育実習直前説明会において学生に配布している。

その構成は以下のとおりである。

〈『教育実習記録』の構成〉

手引編

実習校の概要

I 教育実習の意義と内容

1. 教育実習の意義
2. 教育実習の内容

II 教育実習の実際

1. 教育実習生の心構え
2. 教育実習について
3. 学習指導案作成上の留意点
4. 生徒指導について
5. 授業観察のねらい

学習指導案例（※教科ごとに内容が異なる。）

記録編

指導講話

教育実習記録

指導案記録

授業観察の記録

教育実習から学んだこと

実習指導教諭講評欄

この『教育実習記録』については、毎年度、内容に関して修正を加え、改訂版を学生に配布している。特に、平成26年度からは、それまで冊子形態であったものをバインダー方式とし、中の用紙を差し替え可能な形とした。これにより、学生はパソコンで作成した資料も適宜挟むことができる。また、作成した指導案の必要な箇所のみ指導担当教諭に渡し指導を受けることができ、教育実習期間中の時間の有効活用にもつながっていると考えられる。

(2) 事後学修

事後学修として、各自の実習内容について教育実習報告会で報告することになっている。報告会では、教科指導、生徒指導、校務等をとおして学んだことを発表する。

○教育実習をとおして学んだこと（学生の報告会資料より抜粋）

- ・ 実習中、校務分掌の一部を見させていただいた。先生方一人ひとりに生徒指導主事、進路指導主事といった役職が充てられており、多い先生で3つの役職が充てられていた。各部会で話し合いが行われた翌日の職員朝礼では、決定事項が先生方全員に伝えられており、全校で実施していくというチームワークを感じた。その時々を生徒の実態に即してよりよい学校をつくっていくために、教員同士が協力して課題や問題を解決していくことの大切さを学んだ。また、教科指導や学級経営、部活動指導などもある中でこのような役職があり、教員の仕事は多岐にわたることを改めて感じた。
- ・ 実習を終えて、教材研究の大切さと、国語という一つの学問に対する知識や理解が足りていないことを強く実感しました。今回の実習では、教材研究をするための知識が足りずに、担当の先生方に大変助けて頂いてやっと授業の形になったので、自分で納得のいく教材研究ができるように国語についての知識をさらにつけ、理解を深めておかななくてはならないと感じました。
- ・ 国語の授業では、小学校実習の課題でもあったが、発問が的確にできないことに苦労した。発問が分かりにくいと生徒の活動が進まず止まったり、答えてほしいことが引き出せなかったりして、生徒も自分も困るということを経験した。また、考えるヒントも簡単になりすぎると生徒の思考力を伸ばせないため、どこまで説明するべきかその加減も難しかった。
また、中学校は教科担任制であるので、限られた時間の中で時間通りに活動を進められるようにすることが小学校以上に必要な力だと思った。
- ・ 3週間で、教師という仕事の大変さ・忙しさを感じるとともに、素晴らしい職業であるということに再認識することができた。そして、教師を目指す意欲や思いが、より一層強くなった。今回の実習で学んだことを生かし、今後の生活や学びにつなげていきたい。

4 成果と課題

これまでと同様、実習の感想として、教師の仕事の内容が多岐にわたり、その多忙さに驚いたことを挙げる学生が多く見られた。また、教授技術の向上だけでなく、教える対象である教科についての学修を深めていくことの重要性を改めて認識した学生もいた。学内での事前学修ではなかなか実感することが難しい側面を、現場での実習において実習生自ら体感し、その中で今後の学修課題を見出すことにつなげていることがうかがえる。また、3年次の小学校での教育実習に加えて、今回の教育実習（中学校実習）を行っている学生もあり、複数の校種での実習をとおして多角的な学びを得ているようである。

さらに、教職につくという自らの進路について、その進路を目指す気持ちが今回の実習をとおして一層強まったという学生も見られた。

今後の自らの学修課題を見出し、かつその課題を追究する強い意欲が実習をとおして湧いてきたということは、教育実習によってもたらされる大変望ましい状況であると言える。

今後は、そのような学修状況をさらに持続させていくことができる事後学修のあり方を検討していくことが必要である。